

第2章

● 今治市の現状と第2期地域福祉活動計画の振り返り ●

1. 今治市の地域福祉を取り巻く現状
 2. 策定までの経過
 3. アンケート調査から見えること
 4. 第2期地域福祉活動計画の振り返りと第3期への反映
 - ・ 第2期地域福祉活動計画の基本目標と10の基本施策、23の活動目標
 - ・ 住民座談会から見えること
 - ・ 地域福祉活動計画の進捗状況
- ～第2期地域福祉活動計画から第3期地域福祉活動計画へ～



1. 今治市の地域福祉を取り巻く現状

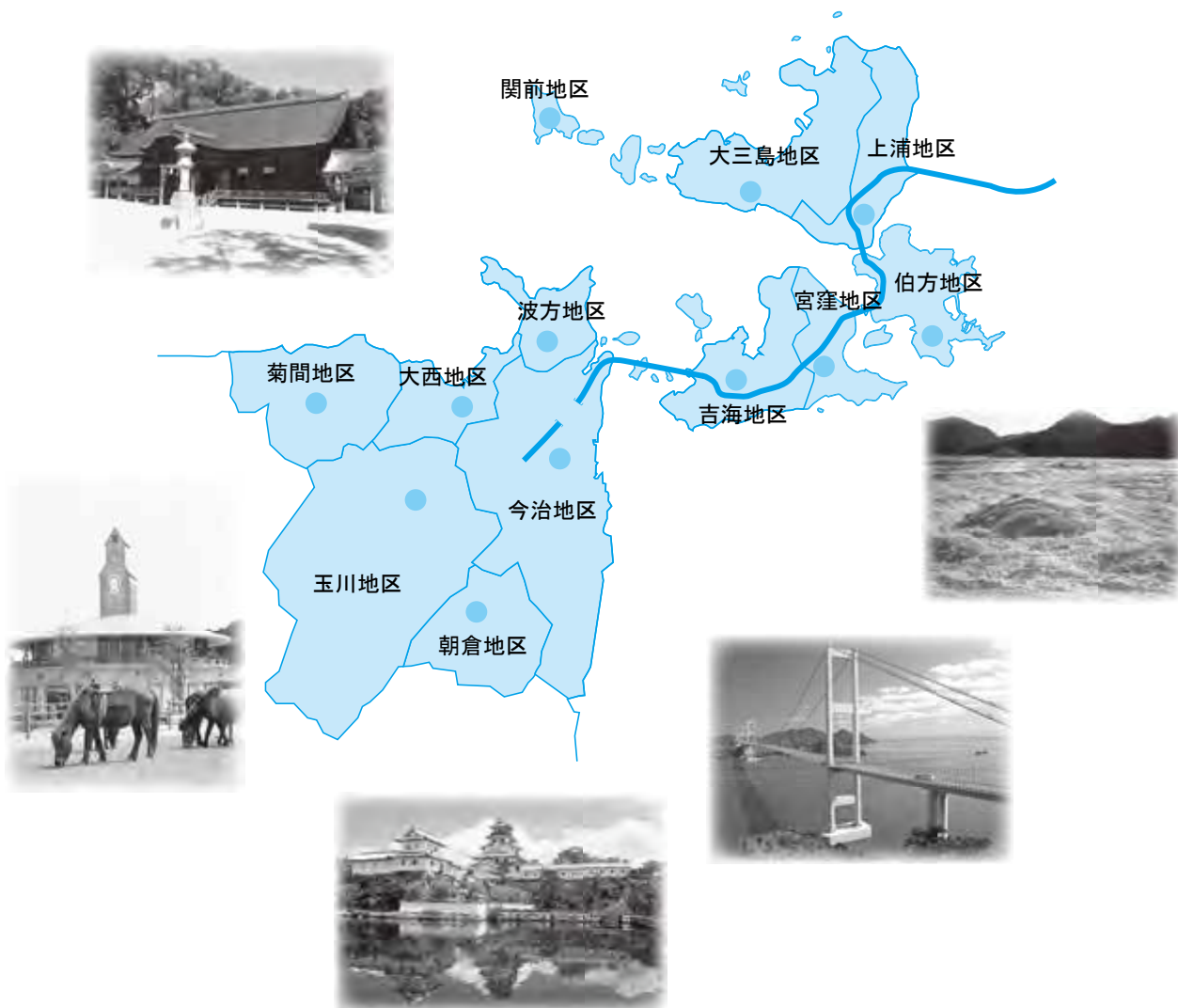
■今治市の概要

今治市は、愛媛県の北東部に位置し、高縄半島の東半分を占める陸地部と、世界有数の多島美を誇る島々で形成される島しょ部から構成されています。豊かな自然と美しい景観に恵まれ、日本三大急潮の1つとして知られる来島海峡や中心市街地が位置する平野部、緑豊かな高縄山系など、変化に富んだ地勢が特徴です。

平成 11 年には「しまなみ海道（西瀬戸自動車道）」が開通し、中四国の交流や流通の拠点にもなっています。

平成 17 年には 12 市町村が合併し、新「今治市」として、生まれ変わり 14 年が経過しました。現在も、各地域で受け継がれる伝統文化をはじめ、大山祇神社や村上水軍城址などの歴史遺産にも恵まれています。また、造船を中心とした海事都市、ブランド戦略により新たな飛躍を遂げたタオルの産地として、国内外に広く知られています。

市内には、約 860 か所の単位自治会があり、旧今治市の 16 地区及び旧町村をあわせた 27 地区を基本単位に地区自治会および地区民生児童委員協議会が組織されています。また、少子化の進行による児童生徒の減少に伴い、平成 27 年に小中学校の統廃合が行われ、小学校が 26 校、中学校が 15 校となっています。



地域福祉に関する基礎情報

計画策定期	第1期	第2期	第3期
項目	平成20年	平成25年	平成30年
人口	173,941 人	168,536 人	161,094 人
（男性）	81,417 人	79,380 人	76,470 人
（女性）	92,524 人	89,156 人	84,624 人
世帯数	72,921 世帯	75,196 世帯	76,209 世帯
1 世帯あたりの人員	2.39 人	2.24 人	2.11 人
小学校児童数 ※5月1日現在	9,166 人	8,129 人	7,666 人
中学校生徒数 ※5月1日現在	4,437 人	4,284 人	3,762 人
外国人住民の人口	2,139 人	1,907 人	3,039 人
65 歳以上の人口	46,557 人	50,521 人	54,876 人
75 歳以上の人口	23,674 人	26,025 人	27,960 人
高齢化率(65 歳以上)	26.8%	30.0%	34.1%
高齢化率(75 歳以上)	13.6%	15.4%	17.4%
認知症高齢者数(自立度Ⅱa 以上)	-	6,284 人	6,682 人
要介護(要支援者)認定者数	-	10,536 人	11,557 人
身体障害者手帳所持者数	8,211 人	8,413 人	7,673 人
療育手帳所持者数	1,170 人	1,286 人	1,401 人
精神障害者保健福祉手帳所持者数	663 人	940 人	1,178 人
生活保護世帯数	1,140 世帯	1,475 世帯	1,494 世帯
生活保護人員	1,485 人	1,911 人	1,879 人
生活保護率 (生活保護人員の今治市人口に対する割合)	0.85%	1.13%	1.17%
出生数	1,295 人 (H19 年度)	1,156 人 (H24 年度)	986 人 (H29 年度)
出生率 (年間出生数の今治市人口に対する割合)	0.74%	0.69%	0.61%
死亡数	2,109 人 (H19 年度)	2,240 人 (H24 年度)	2,333 人 (H29 年度)
自殺者数	37 人	33 人	22 人

データ提供: 今治市福祉政策課・障がい福祉課・高齢介護課・子育て支援課・生活支援課・市民課・健康推進課・学校基本調査
各年3月末現在

項目	平成17年	平成22年	平成27年
単独世帯数	18,744 世帯	19,666 世帯	20,966 世帯
核家族世帯数	41,486 世帯	40,711 世帯	39,513 世帯
三世帯同居世帯数	5,320 世帯	4,579 世帯	3,599 世帯
高齢者夫婦世帯	8,635 世帯	9,529 世帯	10,512 世帯
独居高齢者数	8,051 人	8,886 人	10,155 人

データ: 各年 国勢調査

各年10月1日現在

第2章

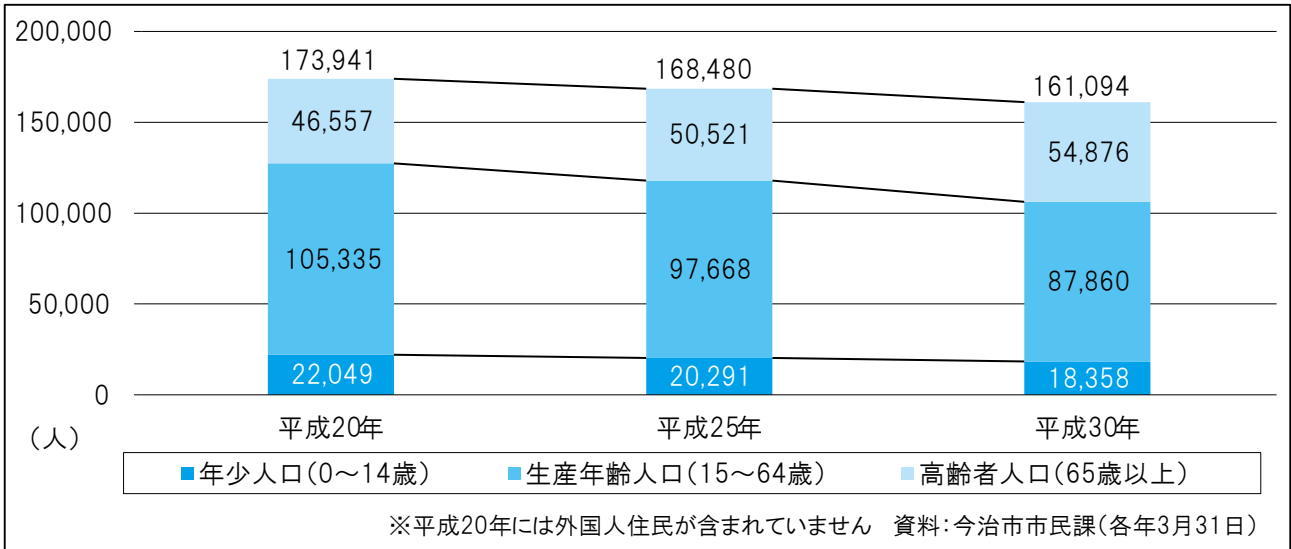
今治市の現状と
第2期の振り返り

人口の推移

■総人口・年齢3区分人口の推移

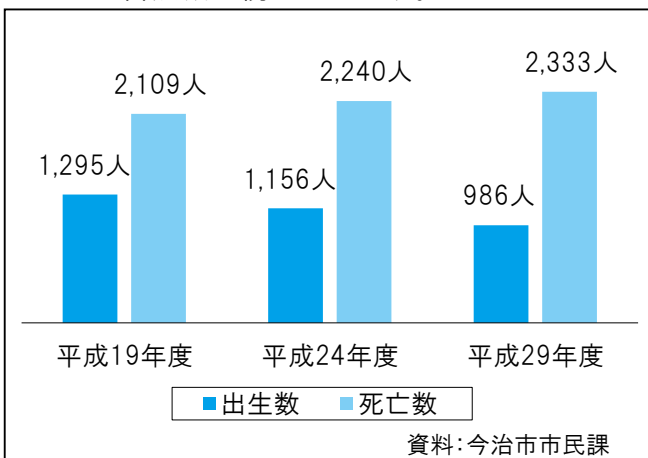
○本市の総人口の状況は、減少傾向にあります。

○0～14歳、15～64歳はともに減少傾向にある一方、65歳以上は増加傾向にあります。



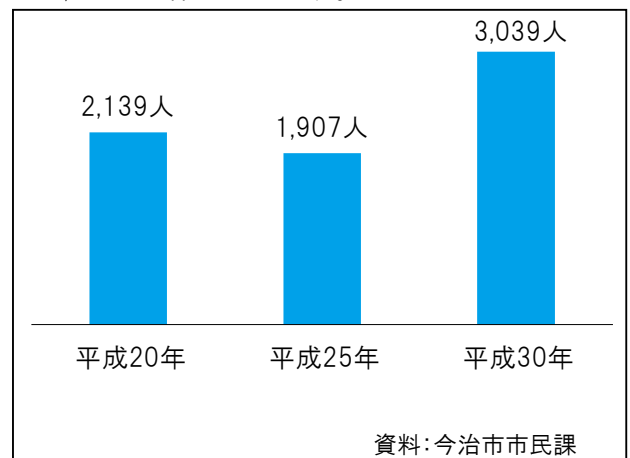
■出生数・死亡数の人口推移

○高齢化を背景に死亡数が出生数を上回る人口の自然減が続いています。



■外国人住民の人口推移

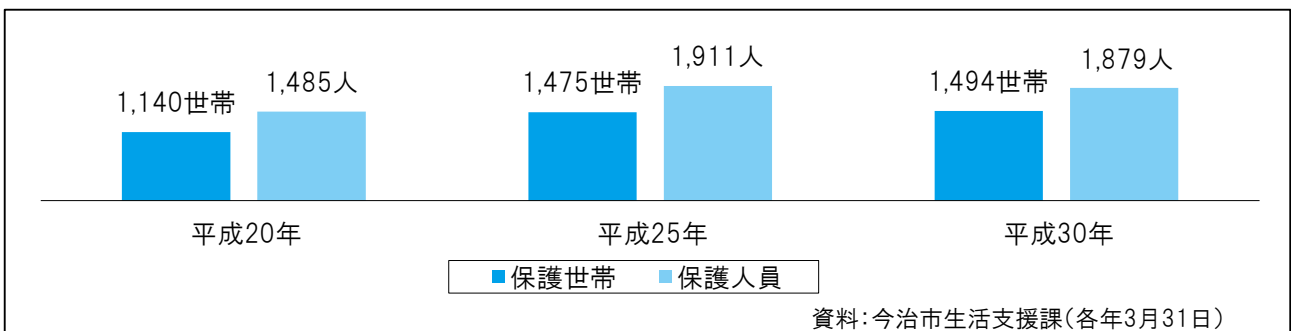
○平成25年から平成30年で外国人が1,132人増えています。



生活保護世帯・人員の推移

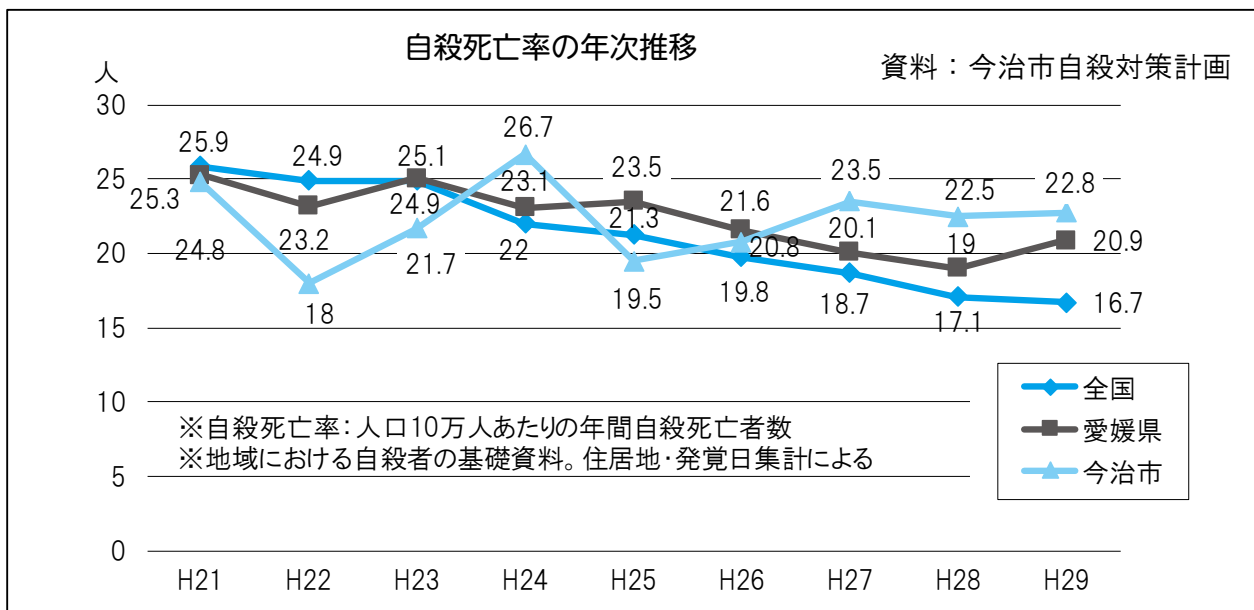
■生活保護世帯・人員の推移

○生活保護受給世帯は増加傾向にあり、保護率も増加傾向にあります。

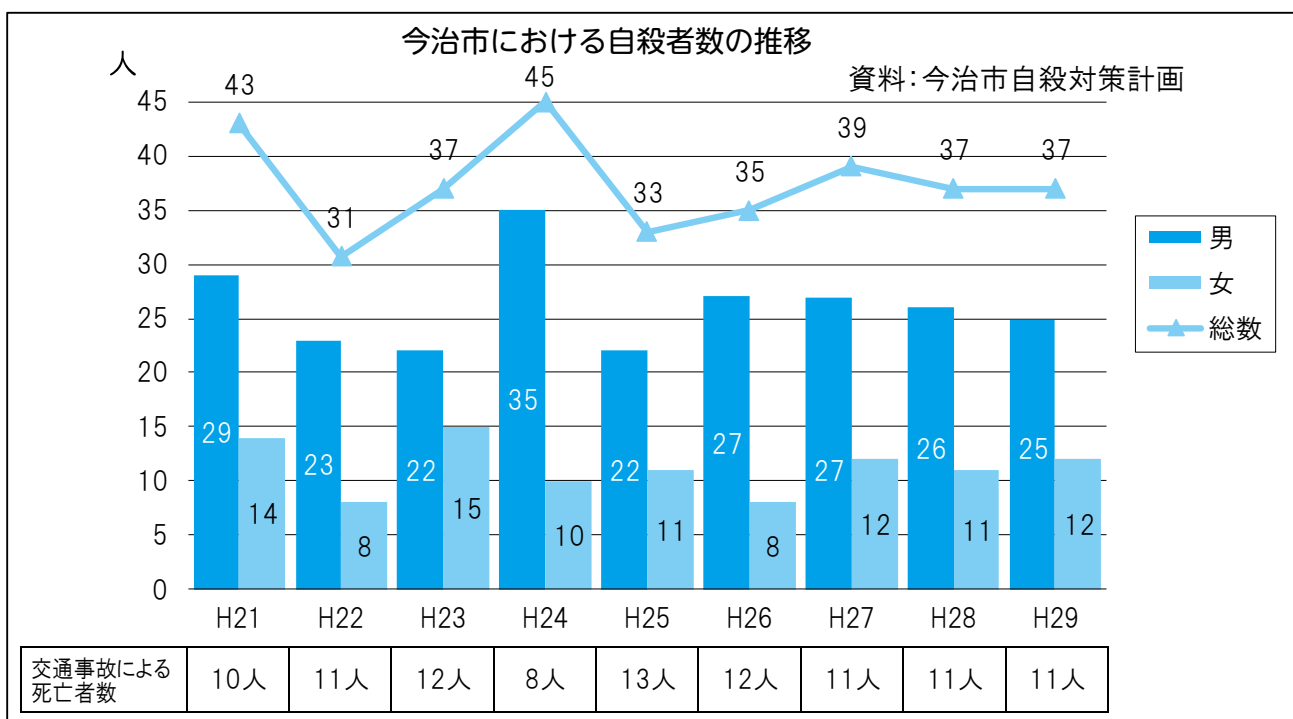


自殺死亡率と自殺者の推移

- 今治市では自殺者数は増減を繰り返したのち、平成25年からは増加傾向となっています。
- 平成27年以降、全国、愛媛県よりも自殺死亡率が高くなっています。



- 自殺未遂者は自殺者数の10倍、自死遺族は4倍とされています。
- 今治市内の交通死亡者数は、ここ数年毎年10人前後で推移しており、自殺者数は交通事故死の約3倍であると言えます。



- 今治市の自殺の原因としては、「健康問題」(37%)が最も多く、ついで「経済・生活問題」(20%)の順に多くなっていますが、原因は様々な問題が絡み合っていることが多いことに留意する必要があります。
- 自殺対策としては、健康問題(こころの病気(うつ病等))のみに働きかけるのではなく、心の病気の背景にある社会的要因を含めた様々な問題に対する働きかけが必要です。

障がいのある人・家族の思い

■「地域で安心して暮らせるためにどんなことを考えたらいいか」

(障がいがある人・家族のご意見)

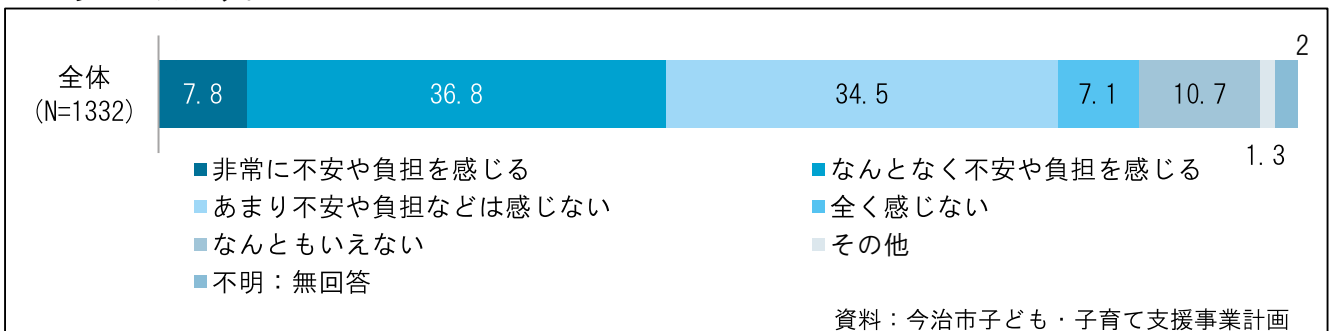
- 利用者の実態をもっと知ってほしい。
- 親亡き後、障がい者を理解しようと努力して下さる施設があればいいなと思います。
- 利用者が出来ること、出来ないことを理解してできないことを助けてくれれば安心して暮らせるし、親としても「安心かな」と思う。
- 地域の近隣住民とのコミュニケーション、B型事業所を利用していることを何と云えばいいか分からないし理解されない。
- 地域によってどんな障がいの人が住んでいるか知っていただきたい。
- 困った時(何かあった時)に助けてくれる人が近くにいたら安心する。
- 余暇(行くところがない、1人で寂しい)
- 災害時の避難所について万が一の時に安心できる支援はないか。

資料：平成30年度今治市自立支援協議会に関するアンケート調査(抜粋)

子育てに対する保護者の思い

■子育てに関する不安や負担等を感じているか(単数回答)

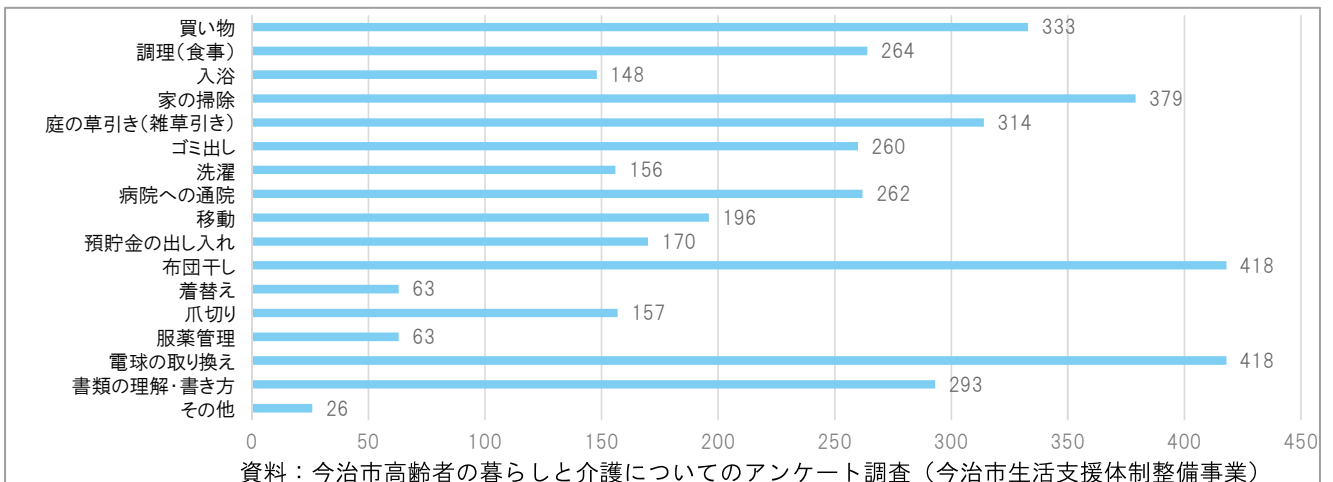
- 子育てに関する不安や負担の有無については、「なんとなく不安や負担を感じる」がもっとも高く、「非常に不安や負担を感じる」と合わせると、半数近くの方が不安や負担を感じていることがうかがえます。



高齢者が日常生活のなかで大変だと感じていること

■日常生活の中で大変だと感じていることについて教えてください(複数回答可)

- 高齢者が感じる生活全般の大変なことは、「布団干し」「電球の取り換え」と答えた方が最も多く、次いで「家の掃除」、「買い物」、「庭の草引き(雑草引き)」の順となっており、生活のちょっとしたサポートが求められていることがうかがえます。

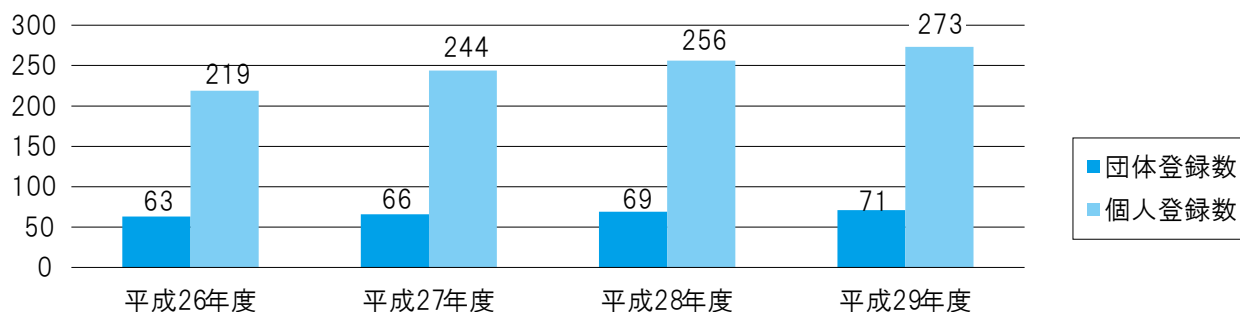


ボランティアの状況

■今治市社会福祉協議議会ボランティアセンター

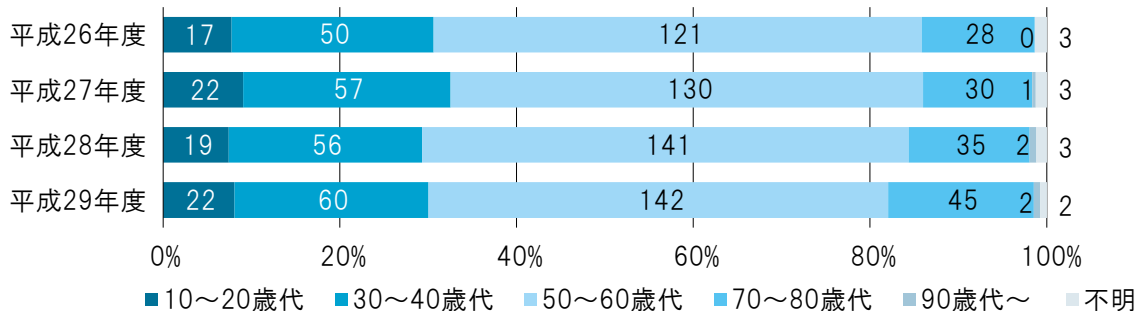
- 平成30年3月末現在、今治市社会福祉協議議会ボランティアセンターの登録状況は、団体が71団体、個人が273人となっています。個人ボランティアの年齢層は50～60歳代の方が多く、女性が8割程度を占めています
- 当ボランティアセンターに登録していない個人・団体については、ボランティア相談の内容に応じて、当ボランティアセンターから連絡をし、需給調整を行い、随時センターへの登録を促しています。
- 当ボランティアセンターに寄せられる依頼内容は、施設や高齢者宅に訪問し話を聞く“傾聴ボランティア”や、子育て中の親などが研修等に参加している間の“託児ボランティア”が多くなっています。

今治市社協ボランティアセンター登録者（個人・団体）の推移



資料：今治市社会福祉協議議会ボランティアセンター（各年度3月31日）

今治市社協ボランティアセンター個人登録者の年代別推移



資料：今治市社会福祉協議議会ボランティアセンター（各年度3月31日）



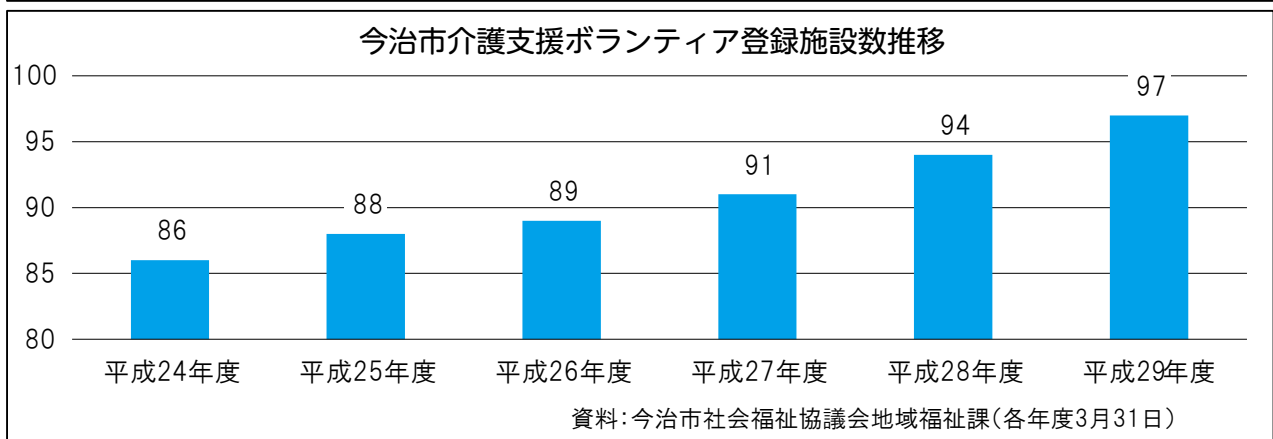
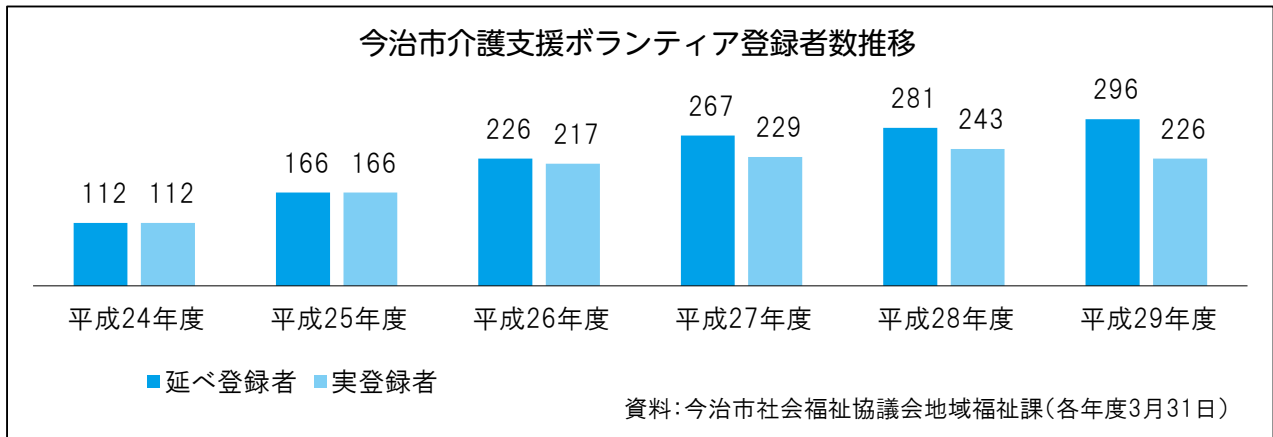
託児ボランティア



イベントサポートボランティア

■今治市介護支援ボランティア事業（市委託事業）

- 高齢者が介護保険施設などで取り組むボランティア活動に対して「ポイント」を付与し、このポイントに応じた交付金を交付する介護支援ボランティア事業を市の委託事業で実施しています。社会参加を通じた健康増進や介護予防等に繋がっています。
- 登録者は平成28年度までは微増でしたが、平成29年度は微減しています。理由としては高齢によって活動の継続が困難になったことが多くなっています
- 登録施設数は年々増え続けていますが、受入実績がない施設もあるのが現状です。

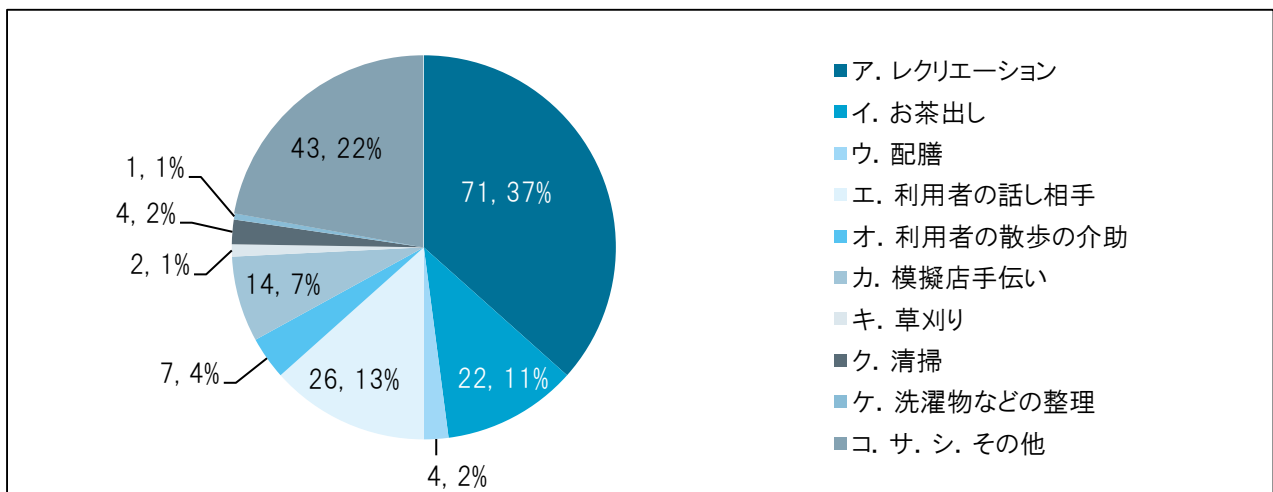


平成30年度 介護支援ボランティア アンケート調査結果

対象者：介護支援ボランティア登録者210名 返信率：124名/210名（59%）



■現在、活動をしている内容



平成30年7月豪雨災害「災害ボランティアセンターの活動について」

平成30年7月の豪雨災害で被害に遭われた方々の支援として、7月9日に「今治市災害ボランティアセンター」を開設しました。地域の皆さまからのご相談（ニーズ）を受け、多くのボランティアの皆様とともに支援活動を行ってきました。土砂出し等の応急的なニーズが少しずつ収束してきたことから、支援活動を8月1日から「今治市豪雨災害住民支え合いセンター」として、被災された方々や被災地域に寄り添い、少しでも支えとなるよう、継続的な活動を進めています。

【被災地域及び被災者ニーズ】

《今治市の被害状況等》愛媛県災害対策本部会議資料より抜粋

○人的被害・死者2名（吉海町、伯方町）

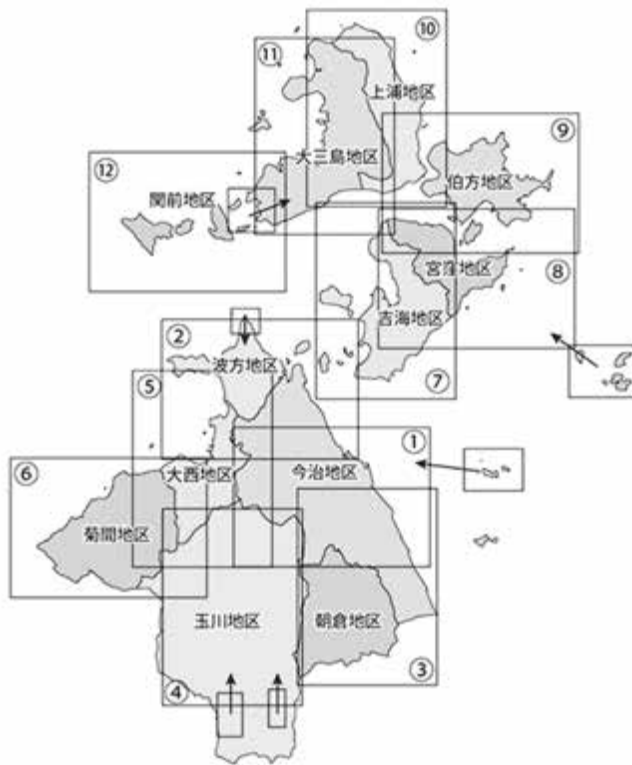
○住宅被害・全壊16世帯、半壊35世帯、床上浸水12世帯、床下浸水32世帯

《災害ボランティアセンターへのニーズ》

ニーズ件数 64件

※平成30年7月9日以降

※平成30年12月31日現在



内訳)

- ①今治地区 7件（小島、神宮、近見）
- ②波方地区 5件（森上、岡、養老）
- ⑤大西地区 1件（九王）
- ⑥菊間地区 1件（田之尻）
- ⑦吉海地区 3件（田浦、泊、仁江）
- ⑧宮窪地区 2件（陸、中村）
- ⑨伯方地区 27件（有津、伊方、北浦等）
- ⑩上浦地区 12件（井口）
- ⑪大三島地区 4件（野々江、宗方、宮浦）
- ⑫関前地区 2件（岡村、大下島）

〈ボランティア依頼内容〉

●被災家屋、敷地内の土砂・泥出し作業

●家財・瓦礫等の運び出し作業や運搬

※一般ボランティアは手作業のみ

※重機による作業、トラックによる運搬、

ブルーシート張りはNPOへ依頼

【ボランティア参加人数】

延べ1,187人

（災害ボランティアセンター活動開始～平成30年12月31日）



2. 策定までの経過

平成21年度に第1期地域福祉活動計画を策定し、合併後の新しい地域づくりとして取り組みを進め、平成26年度に策定した第2期地域福祉活動計画では、第1期から引き継がれた基本理念のもと、4つの基本目標と具体的な取り組みを設定し、地域住民や関係団体と協働で活動を推進してきました。

第1期地域福祉活動計画（平成21年度～平成25年度）



合併後の新しい地域づくり



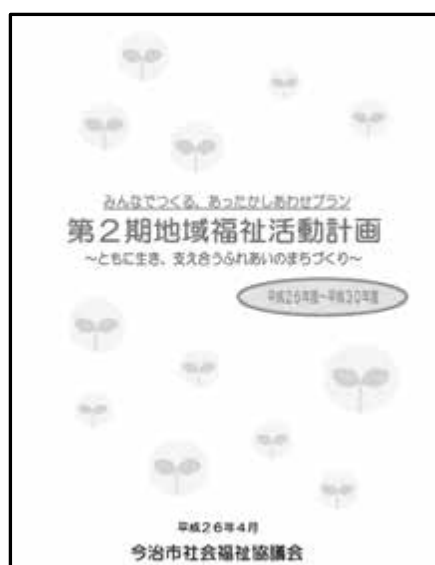
基本理念

「ともに生き、支えあうふれあいのまちづくり」

- 4つの基本目標
- 12の基本施策
- 26の活動方針



第2期地域福祉活動計画（平成26年度～平成30年度）



支え合う福祉土壌づくり



基本理念

「ともに生き、支えあうふれあいのまちづくり」

- 4つの基本目標
- 10の基本施策
- 23の活動方針

第2期地域福祉活動計画の最終年度にあたる平成30年度には、この計画に掲げていた取り組みを振り返るとともに、住民座談会やアンケート調査の結果をふまえ、住民のみなさんが日頃感じている問題や課題の把握に努めました。

①住民座談会（12支部で各2回 計24回）

○実施時期：平成30年11月～12月

○参加者

「サロン活動」「見守り活動」「子育て支援」「高齢者や障がいのある人への支援」「災害に強いまちづくり」などの活動に関わっている方

○内容

1回目	この5年間でできたこと、できなかったことを確認しました。また、5年前の住民の困りごとや地域の福祉課題が今、どうなっているか再評価しました。
-----	---



2回目	第1回住民座談会の中で明らかになった取り組み課題や地域の課題をふまえ、今後5年間のめざすべき方向性を共有し、具体的な取り組みの方法を話し合い、事業提案をしていただきました。
-----	--



②アンケート調査

住民の地域福祉への関心や参加状況、地域福祉活動に期待していることなどを把握し、計画づくりの基礎資料とするため、2,000人を対象に実施しました。地域の福祉関係者などを通じて調査票を配布し、1,859人から回答をいただきました。

（回収率92.9%）



③事務局評価（実績評価）

社協の担当者が、計画の活動方針ごとに設定した活動項目を基に、年度ごとの取り組みの推移や実施状況を整理し、進捗状況の評価しました。

3. 第3期地域福祉活動計画アンケート調査から見えること

ここでは、「地域福祉活動計画アンケート調査」の結果に基づいて、今治市全体の住民の福祉意識や地域状況について分析してまとめました。今治市社協各支部が協力して頂ける地域住民に配布したアンケート票数は2,000部（地域住民1人に付き1部回答）で、そのうち回収できたのは1,859部で、回収率は92.9%となっています。

『あなた自身のことについて』

問1～問11

◎現在お住まいの地域への愛着の有無について、「とても愛着がある」「愛着がある」をあわせると全体の88.5%となっていました。また、その地域にこれからも暮らし続けたいと思うかについては、「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」をあわせると90.9%となっています。

基本目標1『住民主体の活動と社会参加の充実したまちづくり』 問12～問16

- ◎地域の行事や活動について、「積極的に参加した」「たまに参加した」をあわせて74.1%となっています。参加した理由については、上位から順に「地域との関わりを持ちたいから」「活動が楽しく興味のある内容だから」となっています。
- ◎参加した方の回答を年代別にみると70歳代が最も割合が高く85.7%、次いで80歳代が79%となっていました。年代が若くなるにつれて参加の程度が低くなる傾向は第2期地域福祉活動計画と同様でした。
- ◎今後の地域の活動に「あまり参加したくない」「まったく参加したくない」をあわせると12.5%となっています。その回答者の理由としては、「関心がない」「人間関係がわずらわしい」「時間の余裕がない」が上位でした。

基本目標2『安全で安心して生活できる地域福祉の推進』 問17～問19

- ◎隣近所の方との関係については、「日常的に会い、何かあれば声を掛け合うほどの関係」が最も多く34.5%で「特に関わりがない」は1.9%でした。
- ◎「非常時に隣近所の方と支え合える関係性を持ちたいと思いますか」の問いでは、「とても思う」及び「少し思う」が90.4%でした。
- ◎今お住いの地域で感じる課題や問題は、「空き家」が最も多く36.7%、次いで「少子高齢化・人口減少」が34.7%、そして「災害時の対応」が34.1%でした。

基本目標3『共生の地域づくり』

問20～問23

◎過去1年間に困っている方への手助けや助け合いの活動に参加したことが「ある」と回答した人は34.7%で、一方で「ない」と回答した人は、61.6%でした。その他、「無回答」が3.7%でした。

- ◎困っている方への手助けや助け合いの活動に「たまに参加したい」が最も多く56.2%でした。次いで「積極的に参加したい」が25.7%でした。
- ◎「積極的に参加したい」「たまに参加したい」と回答した人は、「ひとり暮らしの高齢者や障がい者、認知症の人への定期的な見守りや声かけが最も多く48.9%でした。
- ◎困っている方への手助けや助け合いの活動に「あまり参加したくない」「まったく参加したくない」と回答した人の理由として、複数回答で最も多いのが「時間の余裕がない」で31.3%でした。

基本目標4『生活の質を高めるための福祉サービスの仕組みづくり』 問24～問26

- ◎福祉に関する情報を得られているかについて「はい」と回答した人は74.3%で、「いいえ」と回答した人が24.3%でした。その他1.3%の人が「無回答」でした。
- ◎福祉に関する情報を得られているかについて「はい」と回答した人が福祉情報を得ている手段は「市の広報（広報今治）」が最も多く82.9%で、次いで「支所だより」「公民館だより」が45.0%となっていました。社協機関誌（社協情報「こころ」、支部だより）は5位の33.3%でした。
- ◎福祉に関する情報を得られているかについて「いいえ」と回答した人の理由は「方法が分からない」が最も多く51.3%で、2位の「時間の余裕が無い」の23.5%とも大きな開きがあります。このような人が福祉情報に容易にアクセスできる手段を講じる必要があると考えられます。

『社会福祉協議会の認知度』 問27～問29

- ◎今治市社会福祉協議会（支部も含む）については「名称や所在地を知っている」が最も割合が高く59.0%であり、次いで「社会福祉協議会の職員を知っている」が47.6%でした。「社会福祉協議会の職員を知っている」の結果を5年前（39.0%）と比較すると8.6%も向上しており、社会福祉協議会の職員がより多くの地域住民に認知されたと考えられます。
- ◎今治市社会福祉協議会が発行している社協情報「こころ」について、「全く読まない」と回答した人が最も多く34.4%で、次いで「たまに読んでいる(年間1～2回)」と言う結果となりました。社協情報誌をより多くの人に読んでもらえる工夫が必要とされています。
- ◎今治市社会福祉協議会が特に力を入れるべき取組として、最も割合が高かったのは「災害時の支援体制づくり」で43.0%でした。平成30年7月に発生した豪雨災害の影響を受けて、地域住民の意識の高まりが影響していると思われます。次いで「地域の見守り・支え合い作り」が35.4%、「相談支援体制の充実」が30.9%と高い数値になっています。

4. 第2期地域福祉活動計画の振り返りと第3期への反映

■ 住民の振り返り

第2期地域福祉活動計画の住民座談会において、振り返り項目ごとの「認知度」・「満足度」・「必要度」を知る設問に回答いただき、点数化し、その平均点を明記しました。
また、取り組みに対するご意見をいただきました。

住民座談会で行った活動計画の振り返り項目（活動方針）

活動方針⑧ 支え合いマップをいかした活動や訓練を実施する

活動方針⑩ 日常からの緊急対応の体制づくり

活動方針⑪ 地域の見守り体制づくり

活動方針⑫ 地域で支え合う活動づくり

活動方針⑬ ふれあい・いきいきサロン活動を支援する

認知度を知る設問

この取り組みを知っていますか？

- | | |
|---------------|----|
| (1)全く知らなかった | 0点 |
| (2)ほとんど知らなかった | 1点 |
| (3)ある程度、知っていた | 2点 |
| (4)よく知っていた | 3点 |

達成度を知る設問

この取り組みができていると思いますか？

- | | |
|---------------|----|
| (1)全くできていない | 0点 |
| (2)ほとんどできていない | 1点 |
| (3)ある程度、できている | 2点 |
| (4)よくできている | 3点 |

「できていない」と思う場合はその理由を、「できている」と思う場合は、その取り組みを出していただきました。

必要度を知る設問

今後もこの取り組みが必要だと思いますか？

- | | |
|---------------|----|
| (1)全く必要と思わない | 0点 |
| (2)あまり必要ではない | 1点 |
| (3)ある程度、必要である | 2点 |
| (4)非常に必要だと思う | 3点 |

取り組みに対する率直な意見も出していただきました。

■ 社会福祉協議会の振り返り

第2期地域福祉活動計画の活動方針ごとに事業の進捗を振り返りました。

▶ 第2期地域福祉活動計画の基本目標と10の基本施策、23の活動方針

基本目標1 住民主体の活動と社会参加の充実したまちづくり

1 身近な地域の課題をみんなで
取り組んでいくための体制づくり

- ① 地域の人々がであい、ふれあい、語り合う
住民座談会の場をつくる
- ② 地域の活動を振り返り、地域の実情に合わせた
小地域で福祉活動計画づくりを目指す

2 地域福祉への理解と関心を高める活動

- ③ 地域福祉の理解と関心を高めるため
の研修、講座、学習会を実施する

3 地域の担い手の養成と
ネットワークづくり

- ④ 地域福祉の担い手養成のための
講座、研修を実施する
- ⑤ 地域福祉の担い手のネットワー
クづくりを推進する
- ⑥ 地域福祉の担い手同士のネット
ワークを活かした協働実践を推
進する

基本目標2 安全で安心して生活できる地域福祉の推進

4 災害時要援護者の支援体制づくり

- ⑦ 災害時のボランティアと支援者を発掘し養成する
- ⑧ 支え合いマップをいかした活動や訓練を実施する
- ⑨ 災害ボランティアセンターの理解や啓発をする

5 地域の見守り、支え合いづくり

- ⑩ 日常から緊急時対応の体制づくり
- ⑪ 地域の見守りの体制づくり
- ⑫ 地域で支え合う活動づくり

基本目標3 共生の地域づくり

6 地域住民の交流の場づくり

- ⑬ ふれあい・いきいきサロン活動を支援
する
- ⑭ 誰もが集える交流の場づくり

7 支援を必要する人たちが、安心して
暮らせる地域づくり

- ⑮ 支援を必要とする方の理解を促進する
- ⑯ 支援を必要とする方と社会をつなげる
活動を実施する(生活困窮者など)

8 共に生きるための福祉教育の実施

- ⑰ 教育機関と連携し福祉教育の充実を図る
- ⑱ 企業と連携し福祉教育を推進する
- ⑲ 住んでいる地域の特徴(風土や文化など)を活かした福祉教育を推進する

基本目標4 安心して福祉サービスを利用できる仕組みづくり

9 相談支援体制の充実

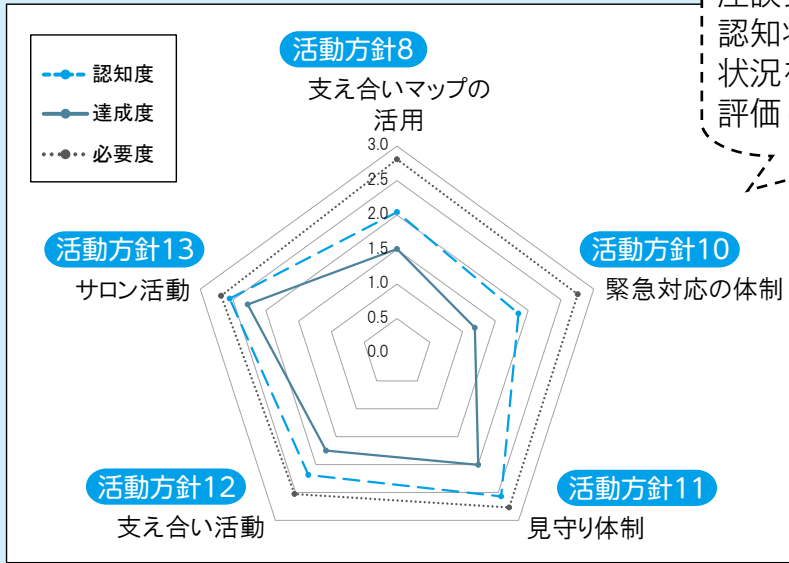
- ⑳ 相談支援体制を強化する
- ㉑ 介護事業の充実と相談支援事業との連
携を強化する

10 福祉情報の提供と広報の充実

- ㉒ 年代に応じた効果的な福祉情報提供を
行う
- ㉓ 様々な人に分かりやすい広報、啓発を行う

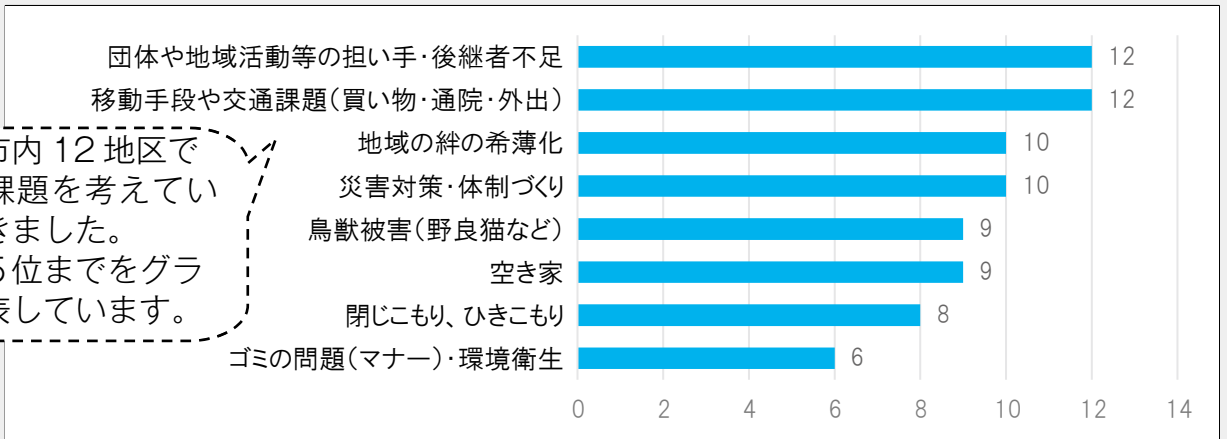
▶住民座談会から見えること

1. 5つの活動方針についての評価

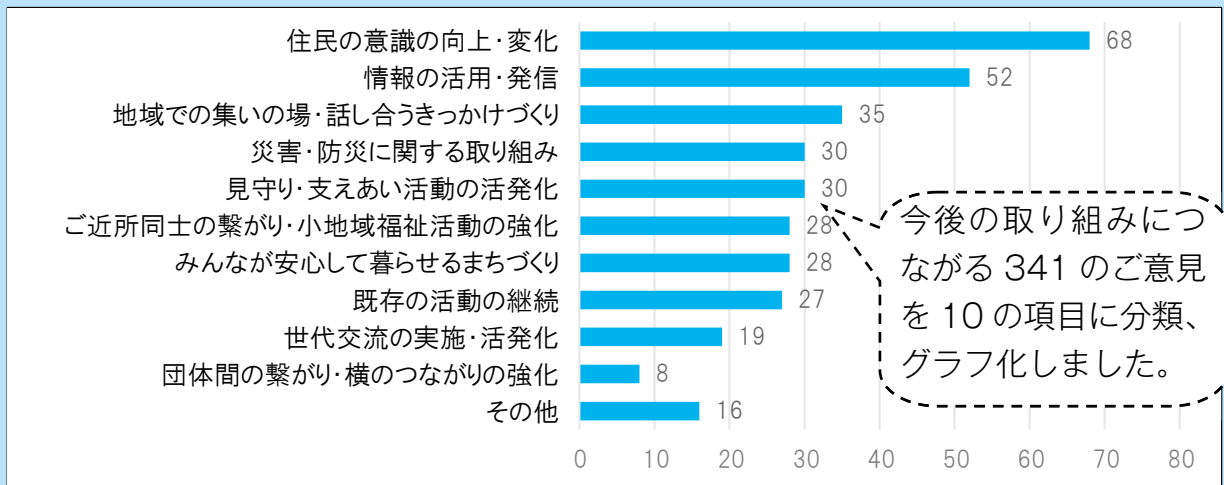


2. 住民から出た困りごと・ニーズ

今治市内12地区で地域課題を考えていただきました。上位5位までをグラフに表しています。



3. 住民から出た取り組みたいこと・目標



【住民座談会で評価を行った5つの活動方針】

- 活動方針⑧ 支え合いマップをいかした活動や訓練を実施する
- 活動方針⑩ 日常からの緊急対応の体制づくり
認知度・達成度に比べ必要度が高く、今後の期待度が高い活動であるといえます。
- 活動方針⑪ 地域の見守り体制づくり
- 活動方針⑫ 地域で支え合う活動づくり
認知度・達成度・必要度とも活動方針⑪より活動方針⑫が低く、今後個々の「見守り」から地域での「支え合い」へとつなげる活動が必要であると考えます。
- 活動方針⑬ ふれあい・いきいきサロン活動を支援する
認知度・達成度・必要度とも高く、活動を推進してきた結果が伺えます。
- 全体を通して、認知度と達成度はほぼ比例しており、認知度を高めることが達成度を高めることにつながると推測されます。また5つの方針とも必要度が高く、大切さを再認識する結果となりました。

その他の困りごと…

地域の見守り体制

認知症の人への理解とサポート

交流の場づくり

障がいのある人への理解とサポート

在日外国人とのつながり

情報周知の問題（有線の廃止等）

近年は外国からの移住者も増え、在日外国人と住民とのつながりについての新しい課題があがりました。また、地域のつながりの希薄化や有線の廃止などもあり、活動内容や災害訓練等の様々な情報が伝わりにくくなっている課題もあがりました。

実際にこんなご意見が…



各団体それぞれが単独で啓発するのではなく、横のつながりによって、広範囲に広めていきたい。

地域福祉の基本はご近所から！



困っている当事者、本人の意見を聞く場作り。



支え合いの意識を地域住民皆に持ってもらいたいな。



基本目標1 住民主体の活動と社会参加の充実したまちづくり

基本施策1 身近な地域をみんなで取り組んでいくための体制づくり

活動方針① 地域の人々がであい、ふれあい、語り合う住民座談会の場をつくる

活動方針② 地域の活動を振り返り、地域の実情に合わせた小地域で福祉活動の計画づくりを目指す

社協の振り返り

小地域福祉活動計画の策定は、各小地域への働きかけが不十分で策定にはいたりませんでした。個別課題を我が事として考え、地域課題にどのように取り組んでいくかを地域住民とともに考え、実行する必要があります。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点1 気づこう

活動目標 **3** みんなに知ってもらおう

活動項目 **5** 地域のことを考えるきっかけづくり

強化

基本施策2 地域福祉への理解と関心を高める活動

活動方針③ 地域福祉の理解と関心を高めるための研修、講座、学習会を実施する



社協の振り返り

各地域で地域福祉に関する研修会や講座を行っており、地域福祉の理解と関心を高める場づくりが定着しつつあります。今後は、若い世代の人たちにも参加していただけるような内容や周知方法を工夫する必要があります。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点1 気づこう

活動目標 **3** みんなに知ってもらおう

活動項目 **5** 地域のことを考えるきっかけづくり

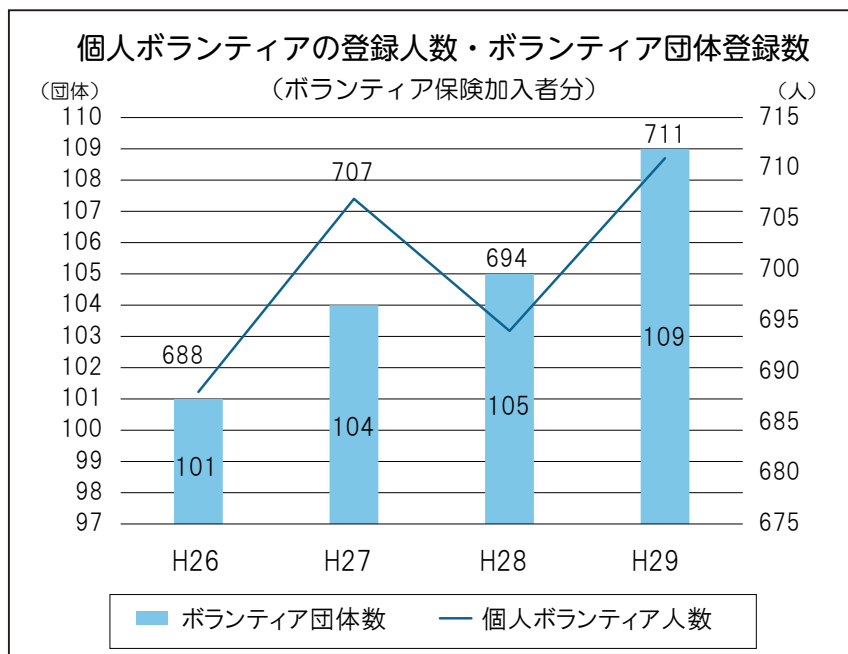
強化

基本施策3 地域福祉の担い手の養成とネットワークづくり

活動方針④ 地域福祉の担い手養成のための講座、研修を実施する

活動方針⑤ 地域福祉の担い手のネットワークづくりを推進する

活動方針⑥ 地域福祉の担い手同士のネットワークを活かした協働実践を推進する



社協の振り返り

個人ボランティアの人数は増減を繰り返しています。ボランティア団体の登録数は、年々増加傾向になっています。ボランティアの高齢化が進んでおり、個人登録数の減少、団体の担い手不足等による存続の問題が懸念されます。今後、地域ニーズに応じたボランティア団体の組織化や市民全体のボランティア意識の向上が必要となってきます。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点2 つなごう

活動目標 **4** ともに活動する担い手をつくろう

活動項目 **8** 若い世代への地域活動の継承と地域貢献の機会

NEW

基本視点2 つなごう

活動目標 **4** ともに活動する担い手をつくろう

活動項目 **8** 子育てを終えた世代や定年退職者の活躍の場づくり

NEW

基本視点2 つなごう

活動目標 **6** つながりの輪を広げよう

活動項目 **11** ボランティア・市民活動の活性化

強化

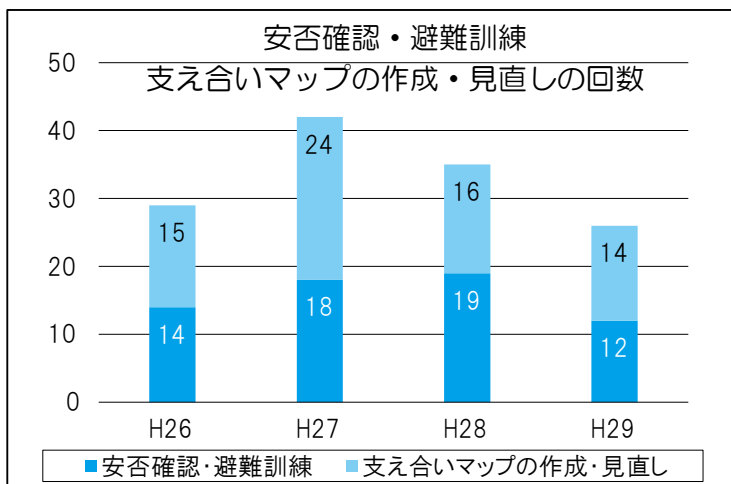
基本目標2 安全で安心して生活できる地域福祉の推進

基本施策4 災害時要援護者の支援体制づくり

活動方針⑦ 災害時のボランティアと支援者を発掘し、養成する

活動方針⑧ 支え合いマップをいかした活動や訓練を実施する

活動方針⑨ 災害ボランティアセンターの理解や啓発をする



支え合いマップづくり

住民の 振り返り

- 高齢者や孤立した世帯が多いため、互いに支え合う気持ちを全員がもつことが課題である
- 1回だけでは地域の一部の人しか知らないなので、継続して実施し地域全体で把握することが必要
- 高齢者から子どもまで皆が経験することが必要

認知度	2.0点
達成度	1.5点
必要度	2.8点

(※3点満点)

社協の 振り返り

平成30年7月豪雨により、災害ボランティアセンターが認知されるようになりました。平成28年度からの研修を実践に活かすことができた面もあるため、今後も災害時に備え、平時からの自治会や災害支援団体、保健・医療・福祉専門職などとの連携体制の強化や生活ニーズに応えるボランティア人材の確保も必要です。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点3 支え合おう

活動目標 8 災害時にも助け合おう

活動項目 15 災害時要配慮者の支援体制づくり

継続

基本視点3 支え合おう

活動目標 8 災害時にも助け合おう

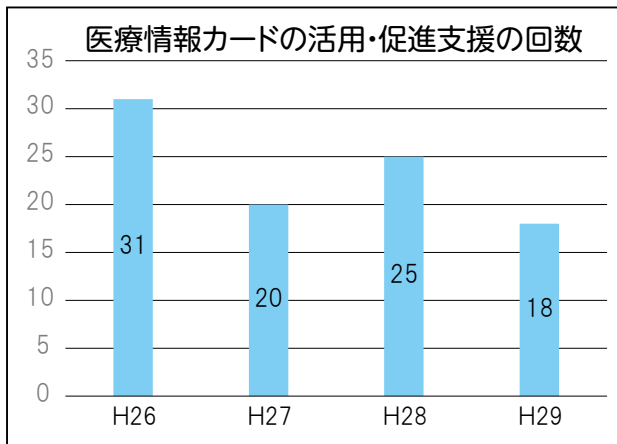
活動項目 16 被災者支援と災害ボランティア活動の体制整備

強化

基本施策5 地域の見守り、支え合いづくり

活動方針⑩

日常からの緊急時対応の体制づくり



サロンで医療情報カードを記入

住民の 振り返り

- 医療情報カードがあることは知っていたが、使ったことも、使っている方もいない
- 数年前に、民生委員が独居高齢者を訪問して、カードを配布した
- 普及方法を考え、広く知らせるようにした方が良い

認知度	1.9点
達成度	1.2点
必要度	2.8点

(※3点満点)

活動方針⑪

地域の見守りの体制づくり

住民の 振り返り

- 子どもの登下校時の見守りはできているが、ひとり暮らし高齢者や認知症の人への見守りがあまりできていないと感じる
- 隣近所と関わる機会が少ないこの頃なので、訪問等で話をする機会をつくっている
- 顔見知りになることによる安心感と相談できる関係をつくりたい。

認知度	2.6点
達成度	2.0点
必要度	2.8点

(※3点満点)

社協の 振り返り

見守りの体制化・組織化につながってはいませんが、地域の見守りの目を増える取り組みを継続して行っている結果、高齢者世帯見守り訪問活動がはじめられた地域もあり、今後は見守りネットワークの構築にも力を入れていく必要性があります。

基本視点2 つながろう

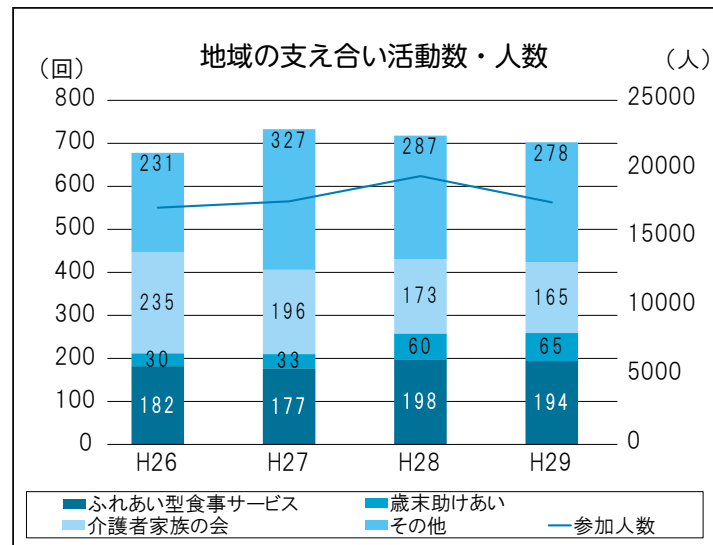
活動目標5 地域でつながろう

活動項目9 見守り・小地域ネットワークの構築

継続

活動方針⑫

地域で支え合う活動づくり



住民の 振り返り

- 自分達には関係がないと思う人たちがいる
(地域住民の理解が必要)
- 他人の家に入るため一方的な支援では難しいが、
声をかけてみるのは必要
- 団塊世代が75歳を迎える時代、地域で見守る必要あり

認知度	2.2点
達成度	1.8点
必要度	2.5点

(※3点満点)

社協の 振り返り

平成28年度から小地域在宅介護者のつどいが始まり、参加者同士で日頃の介護者同士で日頃の介護の悩みや不安を相談し合う機会が少しずつ増えています。今後も、地域でさまざまな支え合い活動を継続的に行い、活動を広めていくこと、さらに新たな支え合いの仕組みづくりも必要です。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点3 支え合おう

活動目標 **7** お互いさまと言える地域にしよう
活動項目 **13** 近隣の助け合い活動

継続

基本視点3 支え合おう

活動目標 **7** お互いさまと言える地域にしよう
活動項目 **14** 生きづらさを抱えるご本人・家族を地域で支える活動

強化

基本視点3 支え合おう

活動目標 **9** 安心して生活できる仕組みをつくろう
活動項目 **17** 生活支援サービス等の開発・拡充

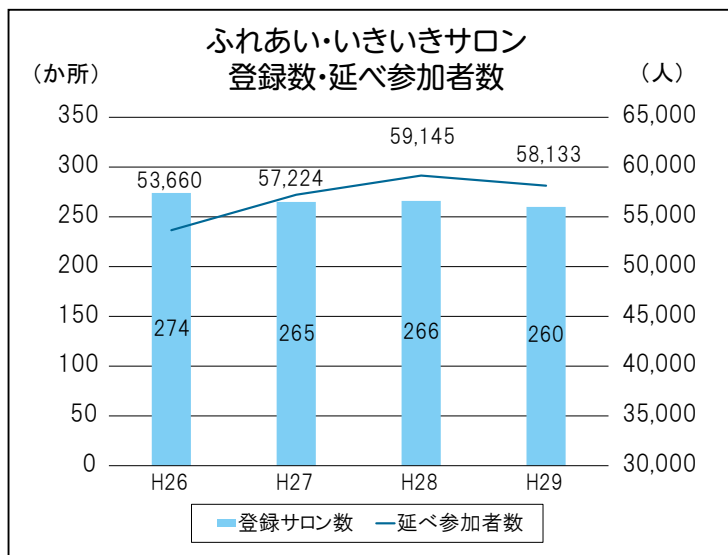
強化

基本目標3 共生の地域づくり

基本施策6 地域住民の交流の場づくり

活動方針⑬ ふれあい・いきいきサロン活動を支援する

活動方針⑭ 誰もが集える交流の場づくりを行う



まちなかサロン



うたごえサロン

住民の 振り返り

- 場所、経費、駐車場、高齢者の歩いて行ける距離など考えないといけない
- 地域にはいろいろ特技をもった人がいる
- たくさんの方が参加して喜んでいる
- もっとみんなに広がる方法を考えていきたい

認知度	2.6点
達成度	2.3点
必要度	2.7点

(※3点満点)

社協の 振り返り

登録サロン数、参加者数は、サロン活動への支援や参加者の意識の変化などで増加している地域がある一方、参加者や担い手の高齢化などにより減少している地域もあります。今後、担い手の養成や各地域のニーズに応じた展開が必要と思われます。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点2 つなごう

活動目標5 地域でつながろう

活動項目10 つどいの場、居場所づくり

強化

基本施策7 支援を必要とする人たちが、安心して暮らせる地域づくり

活動方針⑮

支援を必要としている方の理解を促進する

活動方針⑯

支援を必要とする方と社会をつなげる活動を実施する（生活困窮者など）



発達障がいを伴う方が生涯にわたって、ゆたかな自立生活が送れる環境づくりに向けて、話し合いをしたり、取り組みを行ったりしています。



社協の 振り返り

今後は、障がいの特性について正しい理解を図り、さりげなく見守っていただくサポーターを地域に広げることが大切だと考えています。また、平成27年より開始した「くらしの相談支援室」の事業を通して、生活困窮者の自立を支援する取り組みも重要なテーマです。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点1 気づこう

活動目標 2 人や家族・地域へのやさしさを育もう

活動項目 3 配慮や支援を必要とする方の理解の促進

継続

基本視点4 とともに暮らそう

活動目標 10 一人ひとりの権利を守り、活躍できる社会にしよう

活動項目 19 子どもや若者、障がいのある人の自立・社会参加の支援

強化

基本視点4 とともに暮らそう

活動目標 11 お互いを認め合い、誰もが生きやすい社会にしよう

活動項目 21 合理的配慮の推進

NEW

基本視点4 とともに暮らそう

活動目標 12 制度の狭間や深刻な地域の課題に対してチャレンジしよう

活動項目 24 孤立や複合的な課題を抱える人・家族への寄り添いサポート

強化

基本施策8 共に生きるための福祉教育の実施

活動方針⑰

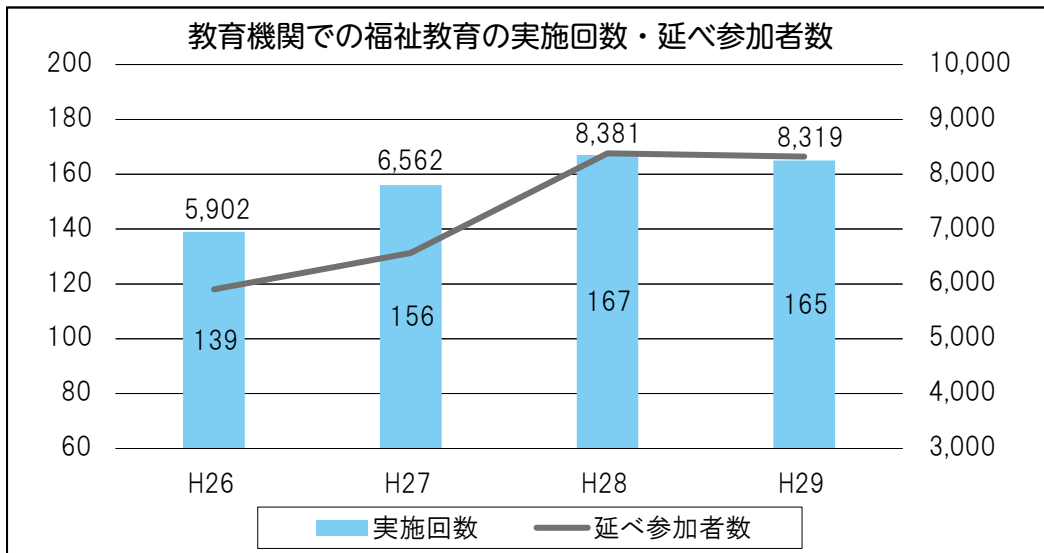
教育機関と連携し、福祉教育の充実を図る

活動方針⑱

企業と連携し、福祉教育を推進する

活動方針⑲

住んでいる地域の特徴(風土や文化など)を活かした福祉教育を推進する



軽スポーツを通じた高齢者との交流



赤ちゃんふれあい体験

社協の 振り返り

教育機関での福祉教育は、ほとんどの小中学校で展開しており、地域によって障がい者や赤ちゃん等の地域住民にも参加していただいています。一方、企業と連携した福祉教育は、現状では限られた取り組みとなっています。今後も地域の方や施設、伝統料理等の地域の社会資源や強み、課題を活かした、つながりのある福祉教育を展開していく必要があります。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点1 気づこう

活動目標② 人や家族・地域へのやさしさを育もう

活動項目④ 家庭・地域・学校と連携した福祉教育の推進

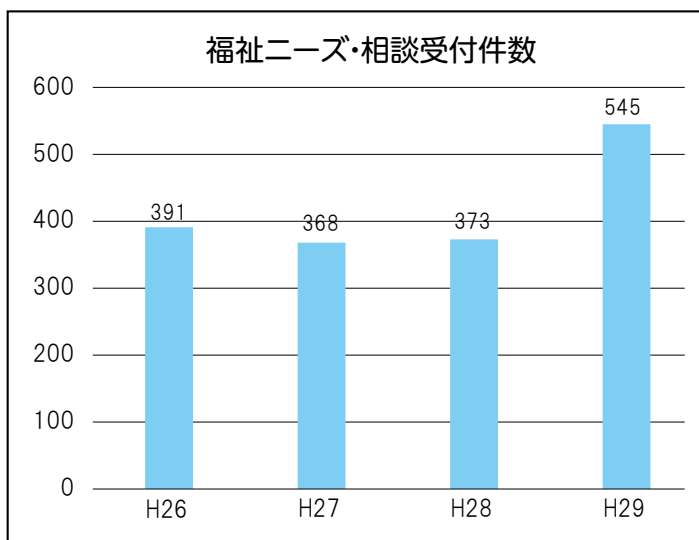
強化

基本目標4 安心して福祉サービスを利用できる仕組みづくり

基本施策9 相談支援体制の充実

活動方針⑳ 相談支援体制を強化する

活動方針㉑ 介護事業の充実と相談支援事業との連携を強化する



これまでの主な相談経路

- ・ご本人・ご家族
- ・民生児童委員
- ・ボランティア
- ・サロン代表者や参加者
- ・福祉センター利用者
- ・行政 など



社協の 振り返り

福祉活動専門員が受ける相談内容としては生活福祉資金や介護・生活全般、ボランティアについてが多い傾向にあります（上図）。また、社協の各部署の相談機能が地域に浸透されつつある一方で、潜在的ニーズはまだ多くあると考えます。今後も積極的な地域福祉活動を通して、潜在的ニーズの発見、把握を行う必要があります。

第3期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点1 気づこう

活動目標 **1** 困りごとに気づき、受けとめよう
活動項目 **1** ニーズ発見の仕組みづくり

強化

基本視点1 気づこう

活動目標 **1** 困りごとに気づき、受けとめよう
活動項目 **2** 相談しやすい環境づくり

強化

基本視点4 とともに暮らそう

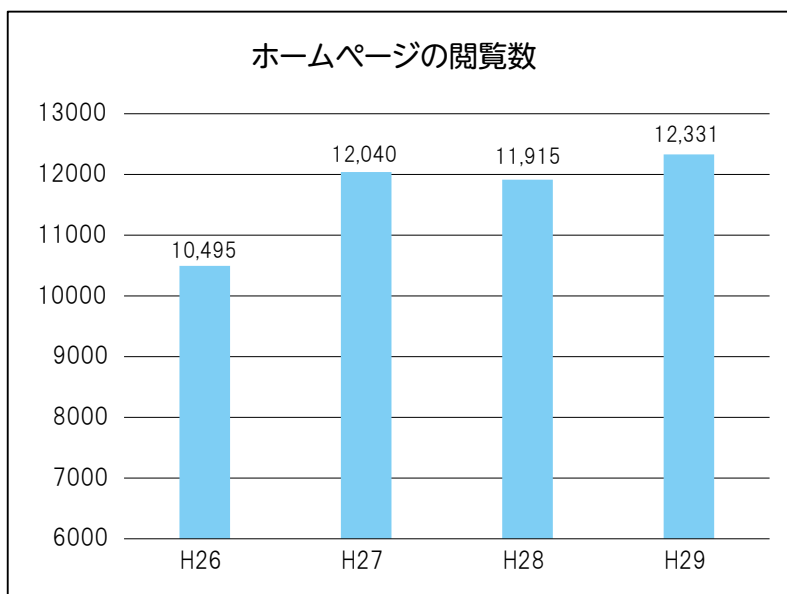
活動目標 **10** 一人ひとりの権利を守り、活躍できる社会にしよう
活動項目 **20** 総合的な権利擁護の推進

強化

基本施策10 福祉情報の提供と広報の充実

活動方針② 年代に応じた効果的な福祉情報提供を行う

活動方針③ 様々な人にわかりやすい広報、啓発を行う



社協の 振り返り

ホームページやブログを通じて福祉やボランティアに関する情報の提供を行いました。平成 29 年 4 月にはボランティアセンターのフェイスブックページを開設し、平成 30 年 7 月の豪雨災害時には今治市災害ボランティアセンターのフェイスブックも立ち上げ、随時情報提供を行いました。今後も効果的な情報提供が行えるよう工夫していきます。

第 3 期地域福祉活動計画とのつながり

基本視点 1 気づこう

活動目標 3 みんなに知ってもらおう

活動項目 6 情報発信の工夫と広報の充実

強化

第2期地域福祉活動計画と第3期地域福祉活動計画とのつながり

1 気づこう

1 困りごとに気づき、受けとめよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
1	ニーズ発見の仕組みづくり	強化	活動方針⑳	相談支援体制を強化する
2	相談しやすい環境づくり	強化	活動方針㉑	介護事業の充実と相談支援事業との連携を強化する
2 人や家族・地域へのやさしさを育もう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
3	配慮や支援を必要とする方の理解の促進	継続	活動方針⑮	支援を必要とする方の理解を促進する
4	家庭・地域・学校と連携した福祉教育の推進	強化	活動方針⑰	教育機関と連携し福祉教育の充実を図る
			活動方針⑱	企業と連携し福祉教育を推進する
			活動方針⑲	住んでいる地域の特徴（風土や文化など）を活かした福祉教育を推進する
3 みんなに知ってもらおう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
5	地域のことを考えるきっかけづくり	強化	活動方針①	地域の人々がであい、ふれあい、語り合う住民座談会の場をつくる
			活動方針②	地域の活動を振り返り、地域の実情に合わせた小地域で福祉活動の計画づくりを目指す
			活動方針③	地域福祉の理解と関心を高めるための研修、講座、学習会を実施する
6	情報発信の工夫と広報の充実	強化	活動方針㉒	年代に応じた効果的な福祉情報提供を行う
			活動方針㉓	様々な人にわかりやすい広報、啓発を行う

2 つながろう

4 とともに活動する担い手をつくろう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
7	若い世代への地域活動の継承と地域貢献の機会	NEW	活動方針③	地域福祉の理解と関心を高めるための研修、講座、学習会を開催する
8	子育てを終えた世代や定年退職者の活躍の場づくり	NEW	活動方針④	地域福祉の担い手養成のための講座、研修を実施する
5 地域でつながろう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
9	見守り・小地域ネットワークの構築	継続	活動方針⑩	日常からの緊急対応の体制づくり
			活動方針⑪	地域の見守り体制づくり
10	つどいの場、居場所づくり	強化	活動方針⑬	ふれあい・いきいきサロン活動を支援する
			活動方針⑭	誰もが集える交流の場づくりを行う

6 つながりの輪を広げよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
11	ボランティア・市民活動の活性化	強化	活動方針⑤	地域福祉の担い手のネットワークづくりを推進する
			活動方針⑥	地域福祉の担い手同士のネットワークを活かした協働実践を推進する
12	社会福祉法人や企業の社会貢献活動の推進	NEW		

3 支え合おう

7 お互いさまでと言える地域にしよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
13	近隣の助け合い活動	継続	活動方針⑫	地域で支え合う活動づくり
14	生きづらさを抱えるご本人・家族を地域で支える活動	強化		
8 災害時にも助け合おう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
15	災害時要配慮者の支援体制づくり	継続	活動方針⑧	支え合いマップをいかした活動や訓練を実施する
16	被災者支援と災害ボランティア活動の体制整備	強化	活動方針⑦	災害時のボランティアと支援者を発掘し、養成する
			活動方針⑨	災害ボランティアセンターの理解や啓発をする
9 安心して生活できる仕組みをつくろう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
17	生活支援サービス等の開発・拡充	強化	活動方針⑫	地域で支え合う活動づくり
18	地域福祉活動を支える財源の確保	NEW		

4 とともに暮らそう

10 一人ひとりの権利を守り、活躍できる 社会にしよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
19	子どもや若者、障がいのある人の自立・社会参加の支援	強化	活動方針⑯	支援を必要とする方と社会をつなげる活動を実施する（生活困窮者など）
20	総合的な権利擁護の推進	強化	活動方針⑳	相談支援体制を強化する
11 お互いを認め合い、誰もが生きやすい 社会にしよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
21	合理的配慮の推進	NEW		
22	外国人や性的マイノリティなど多様な生き方・文化の尊重	NEW		
12 制度の狭間や深刻な地域の課題に対して チャレンジしよう				
活動項目		区分	第2期地域福祉活動計画との関連	
23	深刻な地域課題に対する手立て	NEW		
24	孤立や複合的な課題を抱える人・家族への寄り添いサポート	強化	活動方針⑯	支援を必要とする方と社会をつなげる活動を実施する（生活困窮者など）